

<現代科学と仏教>①

欧米の識者や哲学者は、数ある宗教の中で現代科学ともあまり矛盾しない宗教は仏教と言います。数回にわたってその例を紹介していきます。まず第1回は、**<運命は変えられますか？—因果応報とエピゲノム学>**について概説します。吉崎御坊(第八世蓮如上人開山)に昔々、祖父母に連れられお参りしたことがありました。その門前で**「親の因果が子に報い」**という口上で芝居小屋の呼び込みがあったのを微かに覚えています。母と父の遺伝子を一個ずつ受け継いでこの世に生を受けた後で、遺伝子の総体=ゲノムの不可逆的变化によって運命は変えられません。しかし、遺伝子発現の可逆的变化であるエピゲノム変化によって、運命を変えることができます。親の生活習慣(喫煙、食事など)が子や孫にも伝わり、ゲノムが同一な一卵性双生児の個性の違いも、エピゲノムのなせる技です。



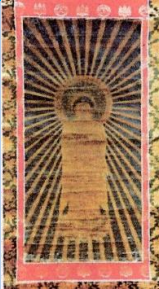
<光教寺ご本尊>
阿弥陀如来立像
(朝倉氏遺跡資料館撮影)
“南無阿弥陀仏”
阿弥陀様のお計らいにお任せします、
帰依しますの意味

<2021年行事>

1月 1日 0:00～ 元旦会
6月20日(日) 永代経法要(未定)
11月 3日(祝) 報恩講
12月31日 23:30～ 除夜会

<阿弥陀如来画像修復中>

戦国時代、第十世証如上人ご下付と伝わる絵像。痛みが激しくカビも多発。見積りは想定外も超越。しかし苦渋の決断後、約1年かかって秋には完了予定。次号に、修復現場見学(2/11)を掲載。



<住職のつぶやき>

危険・不安が一層つのる世の中。人と人のつながり、お寺との関わりも益々希薄になってきています。仏法や当寺の護持にご高配賜れば真にありがたいとの思いで、「**光教寺だより**」を発刊しました(不定期)。一乗谷が登場したNHK大河ドラマ<麒麟がくる>では、光秀と徳川家康との連携が暗示されました。日光東照宮に桔梗紋、近くに明智平、光秀家老斎藤利光の娘・福二のちの春日局は三代将軍家光の乳母、等々。次号乞うご期待。

<お釈迦様と七高僧>①

今から約二千五百年前、印度北部釈迦族小国の王子ゴータマ・シッダールタは、世の無常を感じ29才で出家された。難行苦行を経て、35才で悟りを開かれ、仏陀(ブッダ=目覚めた人)となられた。釈迦族出身のためお釈迦様と敬われ、釈迦が開祖の仏教には、難易二行(難行と易行)がある。易行である浄土の教えは、7人の高僧=七高僧(親鸞聖人選定)によって千年もかけて印度から中国、日本へと伝わった。七高僧の第一と第二は印度の龍樹菩薩と天神菩薩。以下、中国の曇鸞・道綽・善導と続き、第六は源信(『往生要集』著者)、最後に源空(=浄土宗宗祖法然上人)。親鸞は、「師の法然上人に、例え騙されて地獄に墮ちても本望」とまで著述。次回は、龍樹菩薩を語る予定。

<コロナ禍の世界>

新型コロナウイルスが世界中に蔓延しています。昨年10月11日に浄教寺町自治会でも話しましたが、長期戦を覚悟しなければなりません。変異株(3種)も出現していますが、インフルエンザウイルスと同様、ワクチンの効き目にも違いが出るかもしれません。ワクチン接種の順番は、医療関係者の次に高齢者施設関係者、それから16才～35才の学生・青年、55歳までの壮年、75才未満の老齢者・高齢者、最後に後期高齢者とすべきです。ウイルスに感染しても無症状の保因者として**活発に動き回る青壮年を優先すべき**です。分別のある高齢者は三密を避け、絶対に感染しないという日常の心掛けが大切です。100年前、世界に大惨禍を齎したスペイン風邪(=インフルエンザ)も、約2年で終息に向かいました。著名な免疫学者・宮坂昌之氏は、コロナワクチンの高い有効性と低い副反応性が明らかになったとして、接種可に立場を変更(2/10朝 NHKラジオ談)。

<住職の詠んだ短歌>

「武士たちも難儀したろう城山に、一乗谷は今ホワイトアウト」(1月8日の大雪を思い出して)
「老い母の一息いれ階段に 吾(あ)が目には浮かぶ補助棒つかむと」(亡き前坊守を偲び)